

「現状認識と今後の施策の方向性（総論）」にかかる論点

- (1) 今、「文化」を巡ってどのような環境の変化が生じているのか。
また、これからの10年を見据えた場合、どのような変化に注目すべきか。

例) 情報手段の多様化、情報のグローバル化

→ 個人がさまざまな情報を受発信し、世界の人々と交流

文化を消費する人よりも、文化をつくる人の方が増えている

著名人でなくても大きな影響力を持ちうる

→ 地域文化の独自性の喪失、画一化が懸念される一方で、選択肢は多様化

「薄く広く」を対象としたコンテンツでは誰も魅力を感じない

など

- (2) 一方で、これからの10年も変わらず「文化」に期待されることは何か。

例) 個人や地域におけるアイデンティティの基盤としての文化

感性や創造力を高め、心の豊かさを育むエネルギー源としての文化

など

- (3) (1), (2) をふまえ、広域自治体としての県の文化行政が担うべき役割は
どのようなものか。

(参考) みえの文化の特長と「三重の文化振興方針」の主な成果と課題

例) 市町との役割分担、連携のあり方

他府県との連携のあり方

など

- (4) 県は文化行政によりどのような「三重の姿」をめざすべきか。

- (5) めざす姿の実現に向けて、県はどのような分野・施策に注力していくべきか。

例) 本県の芸術文化のレベルアップ

次代を担う若い世代の育成

文化資源の保存・継承

「文化交流ゾーン」の魅力や付加価値のアップ

他分野や、他地域との連携による新たな価値の創造

県内外への効果的な情報発信

など